



韓国における学校給食事情 ー比較教育の視点からー ー（配布資料）

出羽, 孝行

(Citation)

シンポジウム「韓国における給食事情&無償給食～比較教育・教育法の視点から～」:1-12

(Issue Date)

2016-11-12

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003712>



韓国における学校給食事情 —比較教育の視点から—

出羽 孝行 (龍谷大学文学部)

Pohyun109@mail.ryukoku.ac.jp

本発表の構成

はじめに

1. 日韓の学校給食制度の変遷と現状
2. 日韓の学校給食の実施方式—韓国の給食実施の写真を見ながら—
3. 食堂実施場所による教師の指導観—教師へのインタビュー結果から—

まとめ

はじめに

○2010年前後に無償化をめぐり韓国の学校給食が社会的 이슈に発展

- ・2007年より一部地域で無償給食開始。
- ・2010年、統一地方選挙で6名の進歩教育監が誕生。
- ・2011年、ソウル市で学校給食無償化にかかわる住民投票。呉世勲市長(当時)の辞任に発展。

○韓国の学校給食の特徴

- ・進歩教育監の誕生と関連して国民の関心事に
- ・日本より後発ながら短期間に普及
- ・直営給食が一般化(給食に経費をかけることに国民が一定の合意)

1 韓国の学校給食制度の変遷と現状

1-1. 学校給食発展史

●学校給食の始まり

○日本の学校給食

- ・1889年(明治22年)、山形県鶴岡市の私立忠愛小学校(仏教各宗派寺院の住職が設立)で貧困児童を対象に昼食供与を行ったのが起こりとされる。…明治期の学校給食は貧困児童救済が目的。

○韓国の学校給食

- ・1953年3月、カナダ政府から送られた粉類を全国の国民学校の欠食児童の給食用に揃えて実施。
- ・1981年、学生の健全な心身発達のための栄養給食に転換。生徒の健康増進と国民の食生活改善に寄与するために学校給食法制定。同年9月には学校給食法施行令を制定。1983年には学校給食法施行規則を制定。これらの法律は2007年1月19日まで実施される。
- ・1990年代より急速に普及が進む。(特に、中学と高校は2000年前後に普及。)
- ・1993年に議員立法で学校給食法が改正され、給食施設設備など給食に必要な経費調達のための学校給食後援会制度が導入され、1996年には中高等学校給食拡大の効率的推進のために議員立法で学校給食法が改正され、委託給食制度が導入される。

表1 1990年代以降の学校給食普及状況

年度	初等学校		中学校		高等学校	
	給食実施 学校比率	給食実施 学生比率	給食実施 学校比率	給食実施 学生比率	給食実施 学校比率	給食実施 学生比率
1991	13.3	7.8				
1992	16.3	10.2				
1993	38.2	24.0				
1994	37.1	22.3				
1995	71.1	50.4				
1996	88.4	67.9				
1997	97.3	79.7	8.6	4.9	9.8	2.6
1998	99.2	86.5	30.3	11.6	35.0	9.1
1999	99.6	86.1	42.1	30.7	96.3	57.4
2000	99.9	88.1	56.6	40.4	94.7	57.4
2001	99.9	90.7	72.5	58.6	97.6	64.3
2002	99.9	89.9	88.7	82.0	97.8	71.9
2003	99.8	92.3	95.9	92.7	98.4	81.8
2004	99.9	94.3	97.9	94.7	98.7	85.8
2005	99.9	95.3	99.0	96.1	99.0	87.7
2006	100.0	96.4	99.3	97.8	99.3	91.3
2007	100.0	97.7	99.5	99.1	99.5	96.5
2008	100.0	98.1	99.9	98.9	99.5	95.7
2009	100.0	98.9	99.9	99.5	99.8	96.6
2010	100.0	99.3	99.9	99.4	99.9	99.4
2011	99.9	99.6	99.9	99.7	99.9	98.5
2012	100.0	99.9	100.0	99.8	100.0	98.7
2013	100.0	99.7	100.0	99.7	100.0	98.8
2014	100.0	99.9	100.0	99.9	100.0	99.3

【出所】韓国教育開発院『教育統計年報』教育科学技術部・韓国教育開発院、各年度より作成。年度により発行者、編者は異なる。

1-2. 学校給食の目的

[日本]

学校給食法第2条

学校給食を実施するに当たっては、義務教育諸学校における教育の目的を実現するために、次に掲げる目標が達成されるよう努めなければならない。

1. 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
2. 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
3. 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
4. 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
5. 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
6. 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
7. 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

[韓国]

- 「この法は学校給食などに関する事項を規定することによって学校給食の質を向上させて学生の健全な心身の発達と国民食生活改善に寄与することを目的とする。(学校給食法第1条)

1-3. 学校給食の現状

表 2 韓国の学校給食の現況 (2015年2月28日基準)

区分	学校数 (校)			児童生徒数 (千名)			運営形態 (校)	
	全体	給食	%	全体	給食	%	直営 (%)	委託 (%)
初等学校	5,940	5,940	10000.0%	2,745	2,744	9990.0%	5,939 (100.0)	1 (0.1)
中学校	3,185	3,185	10000.0%	1,726	1,725	9990.0%	3,161 (99.2)	24 (0.8)
高等学校	2,327	2,327	10000.0%	1,838	1,825	9930.0%	2,120 (91.1)	207 (8.9)
特殊学校	167	167	10000.0%	25	24	9820.0%	165 (98.8)	2 (1.2)
計	11,619	11,619	100.0%	6,334	6,318	99.7%	11,385 (98.0)	234 (2.0)

出典：教育部『2014年度 学校給食実施現況<'15.2.28 基準>』、2015年

表 3 日本の学校給食実施状況(2014年) 平成26年5月1日現在

区 分		完全給食	補食給食	ミルク給食	計
小 学 校	学 校 数	98.4	0.4	0.4	99.2
	児 童 数	98.9	0.2	0.2	99.2
中 学 校	学 校 数	81.4	0.5	6.0	87.9
	生 徒 数	75.6	0.3	6.4	82.3
特別支援学 校	学 校 数	87.4	0.2	1.4	88.9
	幼児・児童・生徒数	87.9	0.0	0.7	88.6
夜間定時制高等学校	学 校 数	58.8	18.7	0.5	78.1
	生 徒 数	26.8	5.6	0.5	32.9
計	学 校 数	91.9	0.7	2.2	94.8
	幼児・児童・生徒数	90.2	0.3	2.3	92.7
(参考)	園 数	49.5	6.6	4.3	60.4
幼稚園	幼 児 数	53.7	5.6	3.0	62.3

政府統計の総合窓口 (<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001016540>) 学校給食実施状況等調査より。[2016年6月30日確認]

○学校給食の範囲

[日本]

義務教育諸学校

1. 小学校
2. 中学校
3. 義務教育学校
4. 中等教育学校の前期課程
5. 特別支援学校の小学部・中学部

[韓国]

1. 初等学校・公民学校、中学校・高等公民学校、高等学校・高等技術学校、特殊学校
2. 「初・中等教育法」第 52 条の規定による勤労青少年のための特別学級および産業体付設中・高等学校
3. その他、教育監が必要とする学校

1-4. 学校給食の無償化

表 4 市・道別無償給食実施学校の現況(2016年3月基準)

시도	全体学年数				無償化給食学校数			(B/A *100)
	初	中	高	計 (A)	合計(B)			
					全体 学年	一部 学年	計	
ソウル	601	384	318	1,303	941	0	941	72.2%
釜山	308	172	145	625	307	0	307	49.1%
大邱	224	125	92	441	84	0	84	19.0%
仁川	247	134	125	506	257	0	257	50.8%
光州	153	91	67	311	246	0	246	79.1%
大田	146	88	63	297	149	0	149	50.2%
蔚山	117	63	56	236	63	28	91	38.6%
世宗	37	18	14	69	59	0	59	85.6%
京畿道	1,254	621	470	2,345	1,884	0	1,884	80.3%
江原道	351	162	117	630	555	0	555	88.1%
忠清北道	260	128	83	471	388	0	388	82.4%
忠清南道	420	188	116	724	608	0	608	84.0%
全羅北道	421	209	133	763	700	0	700	91.7%
全羅南道	428	250	143	821	776	0	776	94.5%
慶尚北道	470	271	192	933	555	142	697	74.7%
慶尚南道	500	268	200	968	509	231	740	76.4%
済州道	112	45	30	187	157	0	157	84.0%
合計	6,049	3,217	2,364	11,630	8,238	401	8,639	74.3%

出典 金チョンジン 前国会議員ブログ <http://blog.naver.com/kimcj334/220655338806> (2016年11月10日閲覧)より、一部改。

2. 日韓の学校給食の実施方式—韓国の給食実施の写真を見ながら—

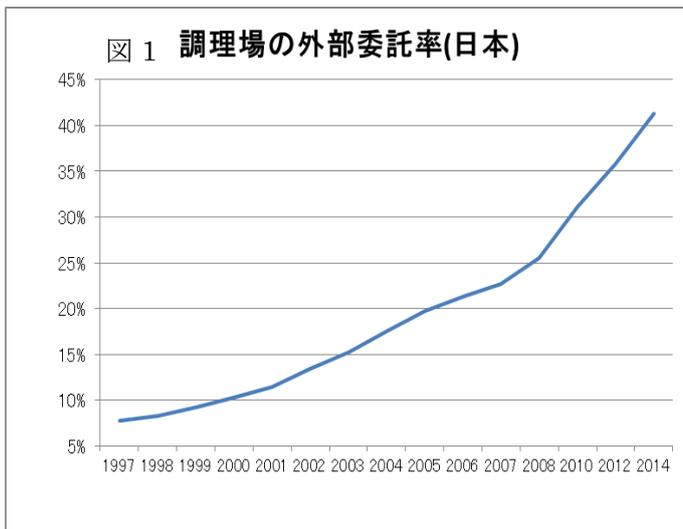
2-1. 直営給食と委託給食

○日本の場合

- ・共同調理場方式（センター方式）と単独調理場方式（自校方式）、親子方式
- ・2014年現在、公立小学校の単独調理場方式の割合は48.5%、共同調理場方式は51.1%、その他の調理方式は0.9%。公立中学校の場合、単独調理場方式の割合は28.0%、共同調理場方式は62.7%、その他の調理方式は9.3%。（文部科学省「平成26年度 学校給食実施状況調査」）
- ・調理、運搬、食器洗浄の外部委託率はそれぞれ4割に上る。特に調理の外部委託がさまざまな問題点が懸念される。

○韓国の場合

- ・直営方式と委託方式
- ・直営給食：校内給食施設を学校長が直接運営・管理
- ・委託給食：給食業務の一部又は全部を委託する形態で一部委託（食材料購買・水質検査は学校が担当。調理作業及び配食・洗浄など、給食作業過程の一部業務を委託する方式）と全部委託に区分される。



韓国教育部「学校給食実施状況」(各年度)、文部科学省「学校給食実施状況調査」(web版)(各年度)を参照の上作成。

○民間委託の問題点(牧下、2009)

- ・栄養士(公務員)と調理員(請負会社の社員)との関係が変化して打ち合わせや協力が難しくなる。
- ・コスト削減による請負会社社員の待遇悪化。
- ・調理員の技術や経験が継承されにくくなる。
- ・責任の所在が曖昧。(食中毒事故発生時の対応問題など)

2-2. 食堂配食と教室配食

表5 日本における学校食堂保有状況

区分		小学校	中学校	特殊教育諸学校	夜間定時制高等学校	計
2006	学校数	6,185	1,359	612	493	8,649
	割合(%)	(28.0)	(16.5)	(72.0)	(75.6)	(27.2)
2003	学校数	6,837	1,467	593	487	9,384
	割合(%)	(30.1)	(18.0)	(72.2)	(69.1)	(28.9)

学校給食における食堂・食器使用状況調査(平成18年5月1日現在)調査結果の概要(文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/kyusyoku/08011517/001.htm <2010年6月23日確認>)

表6 韓国における学校給食設備の状況(2006)^{※1}

区分	食堂配食	教室+食堂配食	教室配食	計
学校数	7625	609	2546	10780
比率(%)	(70.7)	(5.6)	(23.7)	(100.0)

教育人的資源部『学校給食改善総合対策(2007~2011年)』2007年、p.9
 ※1: 引用元には年度の記述がなかったが、他のデータとの照合から2006年のモノであることが判明した。

○用語の定義

- ・食堂配食…調理室に隣接した専用の食堂にて配膳、食事、下膳といった一連の流れが完結する給食実施形態。
- ・教室配食…ホームルーム教室でクラス毎に配膳、食事、下膳が行われる給食実施形態。前後には調理室と教室との間の食材運搬作業が伴う。

○食堂の整備状況

- ・『京郷新聞』の「教室毎にご飯の匂いがいつまで・・・」と題する記事の中で、「教室が狭くて食器を持って通るとぶつかることもある」、「料理を教室に運んでくるまでに味が落ちる」、「給食を食べる時間が足りなくなる」などの児童の声を紹介し、教室での給食(教室配食)の問題点を指摘¹。

→「本来、教室は給食を実施する場所ではない」との認識が感じられる。

- ・教師の立場からすれば、一般的に学級ごとの給食指導が必要ない教室配食のほうが負担が少ない。
- ・先行研究では衛生的理由や、食事の質、生徒の便宜性などの理由から食堂配食が理想的とされるが（孫ヒョンジョンほか、2010、李ギョンアほか、2005、金スッキほか、2003）、初等学校の生徒（児童）のみ教室配食を好む傾向が見られる（朴ムンギョンほか、2010）。初等学校では中学校や高校に比べ、教師による給食指導が熱心に行われているとされる。
- ・一般的には食堂配食が理想的とされ、食堂の設置が政策的にも推奨されている（教育人的資源部、2007、p.16）。

→中学、高校では一般的には食堂配食が理想との意見が多い。

- ・専用の食堂で行われる給食と教室で行われる給食を比較していずれが教師・生徒・保護者に好まれるかどうかを調査した研究は比較的行われてきた（特に韓国の教育大学院の修士論文）。
- ・しかし、これらの先行研究の多くは学校給食の受容者の満足度といった側面からのものが中心であり、教師の指導観から給食実施場所に注目した研究は見あたらない。

2-3. 食堂配食と教室配食の特徴²

[食堂配食の進め方]

- ・給食を食べるための専用食堂設備が調理室に隣接して設定されているが、全校生徒が一度に食べられるほどの設備を持つ学校は都市部ではまれ。
- ・調理員や奉仕活動として手伝いに来る保護者が配膳活動を行い、4時間目の授業終了後にクラス毎、学年毎に決められた時間になったら食堂に向かう。
- ・配膳をしてもらうために生徒は列を作って並び、トレーに料理が盛られたら各自空いている席に着いて食事をはじめ（男女別の席である場合もある）。
- ・食事が終わったら各自、トレー、箸、匙を下膳場所に持って行き、退場。
- ・全教師が給食指導に当たる学校と、当番の教員のみが「秩序指導」（順番待ちの列の整理や座席管理）をする学校がある。後者の場合、教師が直接給食指導を行うのは一月に数回の当番日のみになる。
- ・一般的に衛生的であり、温かいまま食事を出せる反面、配膳までの待ち時間が長く、食事が終わるとすぐに次の生徒に席を譲らなければならない。

[教室配食の進め方]

- ・調理室から各教室まで給食に必要な道具、料理が運ばれ、教室で配膳され、実際の食事教室で行う。
- ・当番の生徒が配膳を担当し、各教師は原則として担任クラスに入り、配膳方法の指導などの給食指導を毎日行う必要がある。
- ・一般的に食堂配食よりも衛生的に劣るが、待ち時間が短く、食事のペースもある程度自分で調節することができ、昼休みの自由度は高い。

[食堂配食・教室配食に共通の事項]

- ・いずれの場合も教職員食堂が別にあることが多く、教室配食でも生徒と共に食事をせずに、指導の前後に食事を行うことができる。
- ・いずれの場合も、クラスの全員が準備を終えるまで待ってから一同で「頂きます」の挨拶をして食べ始めたり、全員で揃って「ごちそうさま」を唱えることはなく、準備が整った生徒から先に

食べ始め、食べ終わったら他の生徒に関係なく、下膳をして自由に残りの昼休み時間を過ごす。従って、給食時には食べている生徒、配膳をしている生徒、下膳をしている生徒が同じ時間、同じ空間に混じり合い、「雑然」とした雰囲気になりがち。

3. 食堂実施場所による教師の指導観—教師へのインタビュー結果から—

3-1. 調査の概要

- ・調査時期：2010年9月～2011年5月
- ・概要：都市近郊地域に位置する6つの中学校にて担任教師³と栄養教師（栄養士）にインタビュー（本発表では担任教師分のみ分析）

表7 調査対象者の概況

調査対象	身分	性	年齢／経験年数	給食実施場所	学校名	配食場所の好み
教師A	担任教師	女性	40代	教室	E中学	教室
教師B	担任教師	男性	40代	併用	C中学	食堂
教師C	担任教師	男性	30代	併用	A中学	教室
教師D	担任教師	女性	40代	教室	B中学	食堂
教師E	担任教師	女性	40代	食堂	D中学	食堂
教師F	担任教師	女性	40代	食堂	F中学	教室

3-2. 食堂配食を好む理由

- ・教師が食堂配食を希望する最大の理由は、教室配食の場合、本来教師にとって休憩時間である昼休みに毎日生徒指導をしなければならない点。
- ・行政業務に追われる教師が本来休憩時間であるはずの昼食時間にまで生徒指導をしなければならないことは負担。
- ・急速に普及した給食制度は既存の価値観をもつ教師には十分に対応できていない。
- ・食堂配食と違い、教室配食には学級での給食指導が付加されてくる。…食堂配食では教師の指導は当番制になるので、一人の教師には一月に数回しか担当は回ってこない。
- ・教師Fの話によれば給食時に自分の学級で指導を行わない教師もごく一部存在する。

教師E：教師達は食堂で食べるのを好む方が圧倒的に多いです。というのは教室でご飯を食べるとなると、教師が子ども達と一緒にご飯を食べることになりますが、教師個人にはその時間が食事時間ではなく、教育の時間になるのです。自分の食事が安定的になされないのです。そのため、不便に感じられ、教室に食べ物のにおいがするために不便に感じられ、子ども達がきちんと管理できないでいると食べ物が（床に）落ちていて。そのようなときに（生徒が）きれいに処理ができないために、教師がすべて（処理を）しなければならないのですが、そのように教師がそれをするほど…。私たちは日本の教師のように教育業務だけを担当するのではなく、行政業務も担当するので、大概負担に思われます。

出羽：それではどのように…。教室で配食するときは「自分はあまり（指導に）行きたくない」と？

教師E：そうです。胃腸病にかかる方もおられますが、（指導に）行きたくないけれども行かなければならぬでしょ。義務的に。だから胃腸病にかかりますね。私もそのような場合、（教室の）前のほうで食べずに後ろで食べるじゃないですか。（前で食べると）子ども達が、40

名になる子ども達が、私のご飯を食べるのを見つめるじゃないですか。だから（教室の）後ろで後ろの席の子ども達と一緒に食べます。（教室で）子ども達と一緒に食べるのは人間ではないと思って…。もし（自分の時間割で）4 時間目が空いていれば先に食べてから（給食時に教室に）入れればよいのですが、いつもそのようにはできないので…。

教師 E: 子どもの教育は食卓の上からの教育⁴からはじまるということに共感はしますが、元々韓国の教師は 90 年代後半から給食が普遍化してきたといいますよね。ずっと給食指導をその前まではしてこなかったのに、（今になって）しようとするので業務が過重になるのですね。だから教室ですのを…最初から 30-40 年かからしてきたというのであれば当然なこととしたでしょう。私は今でもそうです。教師が子ども達とご飯と一緒に食べるようにしているのなら政府や上級機関で教師の他の業務を少し軽減してやらねばなりませんよね。そうでない状態で（給食指導を）しろといえば食事時間が楽しくなく、先生が楽しくなければご飯を食べている子ども達も楽しくないじゃないですか。そこで教育的に良くない効果もあると思います。

○給食指導をする必要性についての議論

- ・教師が給食指導を行わなければ学級の秩序が維持できない。従って、特に教室配食の場合、やはり給食指導は必要。
- ・その他、教室で給食を実施すると食べ物の臭いが残ったり、残った食べ物が教室のゴミ箱に捨てられたりして教室環境が悪化することも指摘される。

教師 B: 子ども同士（だけ教室にいさせて教師が）指導をしなければ一番大きな問題は何かといえば、強い者がうまいものをたくさん食べ、まずいものは弱い者が食べるしかありません。教室で給食指導をしなければそのようになることをはっきりわかっているのに面倒だとか、しんどいといって（給食指導を）しないわけにはいきません。だから要件が整っていないので当然しなければならぬと考えます。もししなくてもよく、学校の食堂で行われるとするならばいいのですが、要件が整っていないので私たちが受け入れている、そう考えます。好きですのではないですよ。（給食指導は）好きですることではないですが、する必要を感じますね。しなければならぬ義務感やこのようなもののために…

3-3. 教室配食を好む理由

- ・本調査では明確に食堂配食よりも教室配食を支持したのは 3 名の教師であったが、食堂配食を支持する教師 D も教室配食に肯定的。
- ・食堂での指導は「秩序指導」であり、給食指導ではない。（といいながらも、教室配食で生徒とともに食事をしていただくだけではなく、配膳のみの指導しかしていなかった）
- ・食堂配食のように並んで食べるのに時間がかからず、教室配食は効率的で生徒指導の面からもよいとの意見も。（教師 A の話による）
- ・ただし、生徒と同じ場所で給食を摂るわけではなく、4 時間目が空いているときには先に教職員食堂で食事をとることもあるという。また、教室で生徒が給食を食べているときに自分が持参した弁当を食べることもある。（教師 A の話による）

教師 F：毎日毎日指導するのですが、私たちの子ども達（生徒）を見ることができるので…。子ども達がご飯を食べること、どのように食べているか、私が干渉することもできますし。偏食をするなど話もできるし。食べることも日々、チェックできるし。それから配膳する間も 10 分程度、配膳する時間に（教室で）立っていれば、子ども達みんなが（配膳を終えて教室に）入ってきた後には、私は教職員食堂でご飯を食べに（下の階に）降りていったのですよ。ここの学校（現在の勤務校）は（食堂で）月に 2 回程度指導しますが、私の（指導の）順番が回ってくる日は全校生徒がみんなご飯を食べられるように秩序指導をするので、子ども達が何を食べているのかを見るのではなく、きちんと列に並んでいるか、配膳されて自分の席で座って食べているか、食べ終わってからは空間が狭いために早く席を立ててのけてくれ、残飯をたくさん残さないように…、このような程度のことを隔々にまで立って先生毎に分かれて指導をするのです。私の場合は扉の前で、子ども達が入って行くのを（食堂が混み合って）窮屈にならないように適当な線でストップさせて待たせ、その次の生徒に今行けと、その次の生徒に行けというのでして、私が知らない子ども達、すべての子ども達を皆統制するので、事実上給食指導というよりは秩序指導でしょう。それであまりおもしろくありませんね。だけど、自分たちの生徒が食べるのを指導するときは、なぜこれは食べないのかとか、均等にみんな食べなければいけないとか、このような話をするのができたのでずっと良かったですし、毎日（給食指導を）するのはしますが、私と関係のあることだから構わなかったです。

3-4. 教室配食での当番—自律性が重んじられる韓国の教師—

○班別に交代で当番を回す方法

- ・一定期間で給食当番を交代させながら皆が当番を経験することで、全員同じ量を平等に配膳することの難しさをわかることで他人の気持ちを理解させるのも教育。

教師 B：交代しながらするでしょう。そうでなければ「私たちは 1 年の間、給食当番、君たちは掃除当番、君は学級で何をし」（などと）、1 年の間の業務を与えることもできるでしょう。〈中略〉だけど、こういった場合は多くはなくて、普通、給食を交代でします。6 名程度ずつ 2 週間ずつ交代してやるので公平でしょう。〈中略〉このように（担当を）回していけば自分が配食しながら感じる心が少し…「おっ、誰はたくさん（食べ物を）与えている、誰は少なく与えている」と感じる事ができ、また公平に与えることが易しくないということを感じることができ、これで不満も減りますよね。これも一つの教育なので。

○一学期中、当番を固定する方法

- ・一定の配慮（他の当番には充てないなど）をしながら一学期間給食当番担当を固定することで該生徒の「専門性」の向上を期待する。…教育的観点よりも効率性重視の立場。

教師 D：先生毎に違うが、私の場合は 1 学期 1 回ずつ…専門的な…何度もして経験が生じると、（配膳作業を）うまく思うからです。〈中略〉1 学期に 1 回ずつすればその子どもがある程度慣れてしまうと、試行錯誤なく、平均して分配して（生徒たちが）食べるからですよ。学期別に。

○学級指導における教師の自律性

- ・教師がどのように給食指導を行うのかは個々の教師の権限が強く、同じ学校でも教師により千差万別であり、「原則があるのではなく担任の先生が、これがよいと思う方法で指導する」(教師 B)。
- ・これは給食指導にとどまらず、学級指導における担任教師の裁量の幅が広く(韓国語では「自律性が高く」)、同じ学校でも教師毎に異なることが考えられる⁵⁾。

教師 F: (学級経営について管理職や先輩教師が一般教師に対して) 強制的に実行する部分はありませんし。(韓国では) 自分の学級に対しては自律権が非常に多い方だと思います。それがあ
る面ではよい面でもあり、悪い面でもあるのですが、学年全体での議論の過程を経て自律
的に一緒に何かをしようという心がよく合えばよいのですが、そうでない場合には、する
クラスはするし、しないクラスはしないし、互いの疎通はあまりできないほうですし。互
いにそれをもってフィードバックをしたりするのもないと思いますし。

教師 A: 担任の先生の裁量により、当番を決めることもあるし、班を決めることもあるし、たぶん
他のことでもそのようにします。そのような部分が自律的でしょう。

おわりに

[学校給食運営方式]

- ・韓国の学校給食は 1990 年代以降急速に発展してきた。
- ・日本はコスト削減の観点から学校給食の民間委託が進むが、韓国では学校給食制度が充実するに
従い、学校自体が給食に責任を持つようになってきた。これには給食事故の発生問題以外に食事
文化に対する認識の違いがあると思われる。
- ・日本と違い、無償給食がある程度社会的合意を得ている。それは地方行政制度において教育行政
の独立が担保されているということ以外に「食べる」という行為自体が文化的に重視されている
からではないかと思われる。

[学校給食実施方式]

- ・給食の実施場所については日本と違い、専用の食堂で行われるのが理想と考えられている。
- ・給食指導は教師にとって大きな負担と認識されている。これは学校給食制度が急速に発展してき
たため、教師が対応できていない部分があると思われる。
- ・教師個々の生徒指導面における裁量の範囲は広範であり、自主性が尊重されている。それゆえ、
学校給食を教育の一環との合意が取りにくい反面、多様な指導方法が存在している。

【引用・参考文献】

京畿道教育監 金ジンチュン『学校給食管理実務』2007年

教育人的科学部『2009年度学校給食実施現況』、2010年

教育人的資源部『学校給食改善総合対策』2007年

金スッキ・李ギョンエ・柳チュンヒら「給食類型による中・高等学生の学校給食満足度」『韓国栄養学
会誌』36(2)、2003年

金スヒョン「学生食堂がないソウルの中学・高校に予算支援」『国民日報』>、2012年8月27日付、
9面

朴熙用「学校給食効果と制度改善に関する研究」『韓国学校保健学会誌』1(2)、1988年

朴ムンギョン・梁イルソン・李ボスク・金ヨンシン「学校類型別給食配食場所による給食品質属性、
及び全般的な満足度分析」大韓栄養士協会『大韓栄養士協会学術誌』16(2)、2010年

- 方ユミ・金ゴニョプ・李ムシク・羅ペクジュ「初等学生の朝食欠食状態及び関連要因」『保健教育・健康増進学会誌』23(3)、2005年
- 白チョンジャ・柳サンフィ「学校給食に対する初等学校教師たちの認識」『韓国実科教育学会誌』15(2)、2002年
- ソル＝ユングム『配食場所による中学生の学校給食に対する満足度研究』仁荷大学校教育大学院修士論文、2011年
- 孫ヒョンジョン・文ヒョンギョン「中学校の学校給食の食堂と教室配食の給食満足度と衛生状態比較」『大韓地域社会栄養学会誌』15(3)、2010年
- 呉ユミ・金ミヒョン・スン＝ジョンア「全州地域中学生の学校給食に対する満足度、メニュー嗜好度、及び改善事項調査」大韓栄養士協会『大韓栄養士協会学術誌』12(4)、2006年
- 王ジェソン「政策イシューの政治過程：無償給食論争事例を中心に」『2012 韓国政策学会 春季学術発表論文集』韓国政策学会、2012年
- 李ギョンア・柳ウンスン「配食場所による釜山一部地域中学生の給食満足度評価」『韓国食品栄養科学会誌』34(2)、2005年
- 李オッキ・張スノク・朴ミンジョン「初等学生の栄養教育による栄養知識、食生活態度及び食習慣の比較」『韓国食品栄養科学会誌』37(11)、2008年
- 李ウォンヒ『学校給食制度の安定的定着方案研究』韓国教育政策研究所、2007年
- 李ジョンジュ『ソウル特別市教育庁傘下学校給食運営方案改善のための公聴会』韓国教育開発院、2003年
- 2000年教育政策課題“学校保健（給食）50年史及び活性化方案に関する研究”編『学校保健（給食）50年史』教育人的資源部、2001年
- 鄭ミョンオク「学校給食の現況と課題」『学校運営委員会』105号、2008年12月
- 鄭イルファン（研究責任者）『学校給食制度の安定的定着方案研究』韓国教育政策研究所、2007年
- 鄭ジスク『給食環境による学校給食の満足度調査—配食場所を中心に—』江原大学校教育大学院修士論文、2009年
- 최승현「고실마다 밥 냄새 언제까지…」『경향신문』<「教室毎にご飯の匂いがいつまで・・・」『京郷新聞』>2008年4月23日付、15面
- 統計庁『韓国の社会指標 2010』2011年
- 統計庁 統計開発院『韓国の社会動向 2010』2010年
- 出羽孝行「韓国における学校掃除—現状とその教育的意義について—」比較教育風俗研究会『研究叢 比較教育風俗』第12号、2011年
- 出羽孝行「韓国における学校給食指導の実態—中学校教員への聞き取りを中心として—」、龍谷大学龍谷学会『龍谷大学論集』第481号、2013年
- 石附実『教育の比較文化誌』玉川大学出版部、1995年
- 石毛直道「食卓文化論」国立民族学博物館『国立民族学博物館研究報告別冊』16号、1991年
- 金田雅代「日韓で始まった食育強化 『栄養教諭制度』と『栄養教師制度』 第2回 特色ある食育を实践する韓国の学校」全国地区衛生組織連合会『食生活』Vol.100 No.12、全衛連「食生活」出版局、2006年
- 牧下圭貴『学校給食 食育の期待と食の不安のはざままで』岩波ブックレット、2009年
- 文部科学省『データからみる日本の教育 2008』、2009年
- 文部科学省「平成 26 年度 学校給食実施状況等調査」、2016年（e-Stat サイト <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001016540> <2016年11月11日確認>）
- 佐々木邦彦「韓国における『無償給食』問題の動向」『学校給食』2011年5月号、全国学校給食協会

1 「教室毎にご飯の匂いがいつまで・・・」『京郷新聞』2008年4月23日付、15面参照。

2 ここでの記述は本研究で実施した教師へのインタビュー調査（第3章参照）や、報告者による小中学校での給食実施状況の観察結果に基づいている。

-
- ³ インタビュー時に非担任教師については、担任をしていた時のことを思い出して回答してもらった。
- ⁴ 原文は「밥상머리교육」。すべての教育は食事をするときのしつけなどを教えるところから始まるとする考え。
- ⁵ 韓国において給食指導だけではなく、学校での掃除活動における、教師毎による指導の裁量幅の広さや、教育と同時に効率性も重視されている点については、出羽孝行「韓国における学校掃除—現状とその教育的意義について—」比較教育風俗研究会『研究談叢 比較教育風俗』第 12 号、pp.51-72 を参照のこと。